



稲原 優芽 さん

●葛生小学校 6年

パティシエになるために

美味しいケーキをたくさん作り、多くの人に喜んでもらえるパティシエになる。これが私の将来の夢です。

家では、よく母と一緒にケーキを作ったり、クッキーを焼いたりしています。だから、いつも大好きなスイーツ作りを生かして、多くの人に笑顔になってほしいと思っています。私はパティシエになるために、今からたくさん勉強したり、ケーキ作りの知識をさらに広げたりしていきたいです。



市長からの

メッセージ



新年あけましておめでとございます。市民の皆様には、さすがしく新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、10月に市制10周年を記念する式典を実施し、市民の皆様とともに未来への新しい一歩を踏み出すことができました。また、かねてより準備を進めておりました唐沢山城跡の国指定史跡化、スポーツ立市元年に佐野日大高校の選抜高校野球ベスト4という快挙など、本市全体が大いに盛り上がりました。5月には、天皇皇后両陛下が田中正造翁ゆかりの地として、本市に御行啓されたことは、翁の生誕の地として大変誇りに感じた出来事でございます。

本市のブランドキャラクター「さのまる」は、テレビや新聞などを通じて本市のPRに大いに貢献しました。また、香港・英国・米国でのパフォーマンスなど世界へと羽ばたいた一年でございます。

新市発足から11年目となる今年は、効率的な行政運営の要であり、皆さんの生命、財産を守る防災拠点でもある新庁舎が完成いたします。これを機に、新庁舎周辺のアクセス道路網の整備を促進し、中心市街地の活性化を図る施策を講じてまいります。また、リーディングプロジェクトである「観光立市」「スポーツ立市」の推進、高速交通の立地優位性を生かした企業誘致の積極的な推進など、さらなる市勢伸展を図ってまいります。

今年は無年です。「未(ひつじ)」が来ると書いて「未来(みらい)」となります。北関東の新中核都市を目指し、輝かしい未来を切り拓く年にしてまいります。と考えております。

市民の皆様には、新しい年が素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げますとともに、本市の行政運営にご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

岡部 正英



今回の表紙 食育講座「おせち料理をつくりましょう」12月10日田沼中央公民館

佐野市生活研究グループ協議会の皆さんによる食育講座「おせち料理をつくりましょう」が開催され、24人の参加者が5つのグループに分かれ、「伊達巻」「雑煮」「山芋のきんとん」「なます」を作りました。

講師の方の指導を受けながら、ふんわりとした伊達巻を仕上げていました。

たかくちさと
高久 千慧さん
(浅沼町)



キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール
平成元年生まれの25歳。
佐野農業協同組合に勤務。
平成26年度の佐野市キャンペーンスタッフコンテストで「ひでさと」を受賞。

佐野市を大いにPR

高久さんは、9月に行われた佐野市キャンペーンスタッフコンテストにおいて、グランプリにあたる「ひでさと」に選ばれました。

このコンテストは、市の観光PRやイベントの顔となるキャンペーンスタッフを選ぶものですが、職場の上司の薦めもあつて出場し、見事、頂点に輝きました。「自分が選ばれてとても驚きましたが、家族が喜んでくれたことが一番嬉しかった」と話してくださいました。

現在、高久さんの一番の趣味は、乗馬だそうです。乗馬体験以来、すっかり夢中になり、動物好きが高じて、ライセンスを取得したそうです。乗馬クラブの行事で金沢市での外乗ツアーに参加して、砂浜を走る体験をしたそうですが、日本海側としては珍しい、素晴らしい晴天に恵まれ、まるで別世界のような爽快な気分で乗馬を楽しんだそうです。



「どまんなかフェスタ」で司会をする高久さん(右)

新スタッフとして初めての活動は

10月に行われた「佐野市制10周年記念・第9回佐野市そばまつり」でした。大勢のお客さんを見て、市民の皆さんのイベントへの関心の高さに驚いたそうです。会場でいろいろな方に「おめでとう、頑張ってください」などと声援を受け、スタッフとしての実感が湧いてきたそうです。

また、姉妹都市である彦根市の「小江戸彦根の城まつり」に観光大使として、パレードなどに参加してきました。その際、水戸市や高松市の観光大使の方たちとの交流の場で、各地での活動の様子や、大使としての経験談などを聞くことが出来て、とても有意義だったそうです。

今後2年間、市のPRなどに努めることになりましたが「自分の知らないこと、新しい発見がたくさんあります。これから一つ一つ勉強して、佐野の魅力、たくさんの方々にも所懸命PRしていきたい」と話してくださいました。

お話をうかがって「ひでさと」にふさわしい、笑顔の素敵なども親しみのある魅力的な方でした。今後いろいろなイベントなどで、市の素晴らしいさを市内外に大いにアピールしていただきたいと思います。キャンペーンスタッフを皆さんも応援してください。(市民記者 山口万里子)

佐野弁
ばんざい

切り株などが足に刺さることを
ソラフムという

先端が堅くて尖ったばらのとげなどが、手足に突き刺さることをツツトサルといいます。これは「突き通さる」が変化した語です。

「うっかりしてばらの木をつかんジャツたら…。とげがツツトサルチャツテ(突き刺さって)さあ。まだひりひりイテン(痛い)だよ。」

杵などを地面に差し込むことは、一般にツツトスといいますが、手足にとげなどを刺した場合でも「親指にとげをツツトシチャツタ(刺してしまった)」といい、ツツトサルと同じような意味になります。

ツツトスと同じ意味の方言に、ツツサス・ツツツアスがあり、いずれも「突き刺す」が変化した語です。昭和25年頃までは、運動靴が買えない時代だったので、子どもの履き物は、わら草履がほとんどでした。山道や道路を歩いていると、竹の切り株や釘などが足に刺さったり、最悪の場合はそれが突き抜けてしまうことがあります。このような状態になることをソラフムといいいます。古くはカッタゲサスなどもいいました。

「こんなところには、ザザツカブ(竹の切り株など)なんかネーダンベ(ないだろう)と思つて歩き回っていたら、ソラフンジャツタよ」

ソラフムは「空(を)踏む」ことで、上を向いて歩いているうちに、うっかりして切り株を踏んでしまうというのが元の意。これと同じ意味の語にフンドスが 있습니다。「踏み通す」の変化語、今ではほとんど使われていません。(市民記者 森下喜一)

